

第3期埼玉県教育振興基本計画（2019～2023）抜粋

第3章 計画の推進に際して

(4) 計画の実施状況のフォローアップに当たっては、指標の推移に加え、関連する情報も含め、多角的な評価を行うことが重要であること。また、子供や保護者などが置かれている環境は様々であることから、個々の状況に配慮しながら、各施策の実施・評価に取り組んでいくことが求められること。

【指標】

(※を付した指標は、埼玉県5か年計画に基づき設定したものです。)

目標I 確かな学力の育成

施策1 一人一人の学力を伸ばす教育の推進

施策指標	指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値	目標値	頁
学力・学習状況調査における学力状況	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査*において、全国平均正答率（公立）を1ポイント以上上回った教科区分（国語、算数・数学の調査種別）の数。	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査の小・中の教科区分（国語、算数・数学）において全国平均正答率を1ポイント以上上回ると全国トップクラスの水準になることから、この目標値を設定した。 (※全国平均正答率は小数値、県平均正答率は整数値で公表されるため、確実に全国平均正答率を1ポイント以上上回ったものをカウントする。)	小学校6年生 0教科区分 中学校3年生 0教科区分 (平成30年度)	小学校6年生 全教科区分 中学校3年生 全教科区分 (平成35年度)	
・「埼玉県学力・学習状況調査*」において、学力を1段階中2段階以上伸ばした児童生徒の割合（※）	<ul style="list-style-type: none">・「埼玉県学力・学習状況調査」において、小学校4年生から6年生まで及び中学校1年生から3年生までの2年の間に、国語及び算数・数学の学力を1段階中2段階以上伸ばした児童生徒の割合。児童生徒の学力向上のため、全国との比較及び児童生徒一人一人の学力の伸びの両面を把握する必要があることから、この指標を選定した。	<ul style="list-style-type: none">・埼玉県5か年計画における平成33年度の目標値（小学校69.2%、中学校55.2%）を踏まえ、これを更に向上させることを目指し、目標値を設定した。	小学校 (4年生→6年生) 60.7% 中学校 (1年生→3年生) 32.9% (平成29年度)	小学校 (4年生→6年生) 69.2%以上 中学校 (1年生→3年生) 55.2%以上 (平成35年度)	24

施策2 新しい時代に求められる資質・能力の育成

施策指標	指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値	目標値	頁
「主体的・対話的な深い学び」の実施状況 ・「主体的・対話的な深い学び」に関する研修を受講し授業を行った教員数(※)	・「主体的・対話的な深い学び」に関する研修を受講し授業を行った教員の人数。	・毎年約1,000人に対して研修を実施し「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業を実践できる教員を増やすことを目指して、平成35年度までの累計値として、目標値を設定した。 ・現状値の3倍程度に実績を伸ばすことを目指し、目標値を設定した。	7,057人 (平成29年度末)	13,000人 (平成35年度末)	
・協調学習*マイスターによる研修等の回数	・協調学習マイスター認定教員が校内、校外において授業改善に係る研修等を行った回数。 児童生徒の「主体的・対話的な深い学び」を実現するため、より多くの教員の資質能力を向上させるとともに、授業改善を推進することが重要であることから、この指標を選定した。		67回 (平成29年度)	200回 (平成35年度)	27
将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査*の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。 新しい時代に求められる資質・能力を育成することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながることから、この指標を選定した。	新しい時代に求められる資質・能力を育成することにより、全国トップの水準になることを目指して、目標値を設定した。	小学校6年生 85.7% 中学校3年生 74.4% (平成30年度)	小学校6年生 95.0% 中学校3年生 80.0% (平成35年度)	